

平成29年度

## 第59回全国公立学校教頭会研究大会(埼玉大会)参加報告

平成29年8月2日(水)～4日(金)

### 大会主題 『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』



一日目:受付(アトラクション)、  
開会行事、シンポジウム  
会場:さいたまスーパーアリーナ  
二日目:分科会  
三日目:  
研究のまとめ、  
記念講演、閉会行事  
会場:さいたまスーパーアリーナ

★一日目:8月2日(水)

12:00～受付・アトラクション

日本三大曳山祭の1つである「秩父夜祭」を支えている秩父屋台囃子の演奏がありました。圧倒されるような迫力でした。次に様々なコーラスやステージで活躍してみえる春日部市立豊春中学校合唱団によるコーラスがありました。最後に「旅立ちの日に」を作曲された坂本浩美先生から「旅立ちの日に」が秩父市立影森中学校で誕生した経緯を述べられ、先生の伴奏により、豊春中学校の生徒さんが合唱しました。プロ顔負けの素晴らしいコーラスでなんとも心地よい感動的な時間を過ごすことができました。



#### <開会行事>

今井会長、茂木実行委員長の挨拶がありました。今年度は「自立・協働・創造」のキーワードの元、全国公立小中学校教頭会の「命」ともいえる研究大会が

開催された旨を述べられました。

来賓挨拶の中では、埼玉県知事が小4から埼玉県学力到達度調査を行い、中3まで個々の成長を把握し、学力の定着に努力していることやリンカーン大統領の例から、協調と自分をおさえるということが人間性を創っていくのだというご祝辞が印象的でした。また、埼玉市長のご祝辞では小1から全校で英語教育を実践していることや働き方改革の事など話されましたが、特に就任当初から現在までに市内全ての学校を2度訪問されてみえることに感心しました。

<基調提案>

『豊かな人間性と創造性を育み 未来を拓く学校教育をめざして』のもと長島研究部長から提案されました。

<全体シンポジウム>

テーマ

「きめ細かで質の高い教育を推進し 未来へ飛躍するグローバル人材の育成をめざして」

コーディネーター 杉田 洋(すぎた ひろし)氏

(國學院大學人間開発部初冬教育学科教授・日本特別活動学会理事・平成28年～エジプト共和国への特別活動の導入に取り組む)

シンポジスト 勝野 正章(かつの まさあき)氏

(全国公立学校教頭会アドバイザー)

小島 奈津子(こじま なつこ)氏

(フリーアナウンサー・埼玉県蕨市教育委員)

佐々木 則夫(ささき のりお)氏

(十文字学園大学副学長・元サッカー日本女子代表監督)

シンポジストの方々より、それぞれの立場からテーマに関する話題が次のように提供されました。

勝野氏からは、「小学校から英語教育が取り入れられ、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定もあり、語学力を早くから身に着けさせようという動きが大きい。しかし、それがこれからは人材の階層化になることがないよう、多様性に価値を置き、包括的な共生社会が求められる。よって語学に加えて認め合いの心が重要であり、そのためにはコミュニケーションへの意欲が必要となってくる。」

小島氏からは、「幼少の頃から、外国籍や特別支援を要する子どもたちと共に学び、差異を当たり前と感じ、認め合い自然な形で接することができるような環



境がよいと思う。そして子どもたち一人一人の個性をのばしていくことが重要である。」

佐々木氏からは、「グローバルの人材を求めるならば、そのための長期的なビジョンをもち、企画してアクションを起こす必要がある。指導者の育成も重要である。サッカー界は世界に通用する選手を育成するため、長年に渡り努力し続けてきた。その結果世界に通用する選手を育成することができた。またグローバルな中で日本の良さを生かすことが重要だ。」

杉田氏からは、「ダウン症の子どもと共に成長したある児童の感動的なビデオを提供され、『人に頼られることは人をあんなに強く優しくするのだ。』ということやこれからのグローバル社会で生きていくには語学・学力はもちろん重要であるが、その前に豊かな人間性・協調性が必須である。」と述べられた。

二日目:8月3日 分科会9:00～ 6課題10分科会

第4分科会で南伊勢町立南勢小学校 田辺 宣昭 教頭先生が提言されました。

課題「組織・運営に関する組織」

「組織力を高めるための教頭の役割」

～防災教育を核として、地域とともに高まる組織力～

地域とともに高まる組織力を育成するため、「どうせやるなら みんなでやるか」と教頭会が中心となって、企画・運営を行い、小学校・中学校・高校・行政・地域と連携し、地域の一斉防災訓練に



学校行事として参加した。このように防災教育を軸として地域との結びつきを強め、学校の組織力を高める実践の報告でした。助言者の先生からは、「防災教育を核にして結びつきを深めたことはとても良い素材である。地域・学校ごとに違うと思うが、キャッチコピー

ーをして各学校に持ち帰ってほしい。また、RV PDCAがきちんとできている素晴らしい取組である。これは全てに通じる。マネジメントを内側からだけでなく、外側の視点から考えているところも素晴らしい。」等多くの賞賛の言葉をいただきました。

他の分科会の内容は次号の会報で掲載の予定

★三日目:8月4日 9:00～受付

<研究のまとめ>

各分科会からのまとめを研究部会が行いました。

<記念講演>

講師:梶田 隆章(かじた たかあき) 氏

(東京大学卓越教授・特別榮譽教授/東京大学宇宙線研究所長)

演題:ニュートリノの小さな質量 ～神岡地下での研究～

2015年 ノーベル物理学賞(ニュートリノ振動の発見)

ニュートリノ振動という日常生活では目にしない少し難しいお話を写真も交えながら、非常にわかり易く説明していただきました。そして、いかにしてこのような大発見が誕生したのか、その根底にあるものは何なのか、何が重要なのかを感じた感動的な時間でした。内容が興味深くて、2時間弱の講演もあっという間に過ぎてしまいました。少しその断片を紹介します。

- カミオカンデは陽子の崩壊を探求するものだったが、それは見つからず、ミューニュートリノ数が予想より少ないことに気づき、それをさらに追及することとした。そしてスーパーカミオカンデを建設し、予想通りとなり、学会に発表して世界中から注目されることとなった。
- カミオカンデやスーパーカミオカンデの建設は、危険な工事や1年ほど地下深くもぐらなければならないといった大変な工事でもあった。しかし、日本の大学だけでなくアメリカとも共同してチームを組み、そのチームワークの良さと一人一人のがんばり、そして何よりも疑問点を追求するというワクワク感で乗り越えることができた。
- 今までないものと思われていたニュートリノに質量があるとわかり、それが学会でも認められた後、アメリカのクリントン大統領が大学生の前で「我々の歴史上の基礎学研究的な位置などに大きな影響を及ぼす発見があった。自然を純粹に不思議と思って調べることの大切さが重要である。」と述べられた。
- 目の前のことだけでなく、自分が不思議と思ったことをつきつめていくことの大切さやチームワークの重要性を子どもたちに教えてほしい。

<閉会行事>

次年度は北海道で開催されるので、北海道大会実行委員長からビデオ紹介とともに挨拶がありました。北海道の素晴らしさを再認識し、今年度同様期待が膨らむ内容となりそうです。

(辻 幸子)